参考資料３

生涯学習・公民館のあり方

１　日本の生涯学習の特徴と課題

○学校教育と切り離されて取り組まれてきたことから、自分らしく生きるために学ぶ場（自己実現や趣味・教養の場）として発展してきたが、社会とのつながり（地域や多世代との連携）が弱い。

○学びの成果を社会化し、社会的諸課題の克服を視野に入れた生涯学習の推進という視点が弱い。

○「公民館」は「公共を担う市民を育成する」ためのもの（民主主義の学校）。自発的に学ぶという営みを、社会のあり方を考え豊かな生活文化をつくることにつなげていく視点が求められる。

２　これからの生涯学習のあり方（公民館の役割）

○公民館の役割 ①：個人的学習だけではなく、集団的自律的学習の機会と場を保障する

自発的に学ぶことによって「自己実現」することが原点だが、社会化する視点や機会がないまま終わることも多い。他者との関係のなかで自己形成するという視点、また、自らの思考や学習を統合し制御する主体形成の視点が重要

○公民館の役割 ②：みんなに開かれた「社会的なきずな」づくりに貢献する

生涯学習の推進によって、一緒に行動することを可能とするネットワーク・規範・信頼感を醸成する。違いを認め合える、誰にも開かれた「きずな」づくりに取組む

○公民館の役割 ③：ネットワークを広げ「社会包摂」を進める（公民館を利用しない（できない）住民にも開かれている公民館をつくる）

より広く多様な人々が生涯学習のテーブルに着くことができるよう、世代・性別・職業・階層等自分と違う立場にある人々を「つなぐ」（ネットワークを広げる）

○公民館は地域共生社会のプラットホーム（役割①②③）

学ぶ・つながる・役立つ生涯学習の推進拠点として、学校・社会教育機関・福祉施設、地域や住民活動との連携・協働を図り、地域共生社会づくりに取組む

３　求められる公民館像 ～ 学ぶ・つながる・役立つ生涯学習の推進拠点 ～

○誰もが生涯学習に参加できる館づくり（自発的に学ぶ人の輪を広げる）

生活文化の情報受発信拠点・交流拠点／まちの様々な文化活動・地域活動の情報が集まり、誰もがアクセスできること／自主活動情報が発信できること／気軽に訪れ、団らんや交流ができること／利用者が自主的・主体的に事業や運営に参画・協働できること

○まちづくり、地域コミュニティの活性化に役立つ

暮らしに役立つ公民館活動の推進／互いに学び合い交流できる／安心して暮らせる地域社会づくりに貢献する

○学ぶだけで終わらず、つながりを広げていく（ 学習の成果が社会に「役立つ」回路を拓く）

グループ活動の成果を、活動に参加しない（できない）人たちに役立てる・還元する

○みんなで生涯学習を推進する

・生涯学習の推進によって、「社会包摂（ソーシャル・インクルージョン）」に取組む
・公民館は、みんなのための「学習権」をみんなで保障し合うための連携拠点、参画・協働の場
・生涯学習の主体・当事者である「住民」は、生涯学習の推進という公共課題に参画する権利と役割がある
・行政はすべての人の「学習権」を保障し、文化資本や社会資本の形成につなげる役割がある